

令和4年度タウンミーティング記録

件名	(仮称)川西市子ども・若者未来計画(案)「市立就学前教育保育施設のあり方」に係るタウンミーティング
事務局 (担当課)	川西市教育委員会 こども未来部 こども支援課 内線(3442)
開催日時・場所	令和5年2月5日(日)10~12時30分(清和台公民館)
参加人数	32名

【開会】

(事務局)

市長・教育長あいさつ、進め方の説明、計画(案)に関する事務局説明

【補足】以下の意見交換については、個人が特定される内容などを伏せた上で、発言者の発言内容をそのまま掲載することを基本的な考え方としています。

(参加者)

意見です。子どもが減っているから潰すというのが簡単に言えば今の経緯だと思います。それは間違っています。情報の出し方がずるいと思います。子どもが減っていると言いますが、エンゼルキッズさんは2倍くらい増えています。定員が105名のところ、川西市の教育要覧によると200名入れています。子どもが減っているから幼稚園も減ると言うのであれば、エンゼルキッズも減らないとおかしいのに激増しています。要は川西市が公立の幼稚園の給食や3年保育といったことをほったらかしにしているからエンゼルキッズが2倍になっているのだと思います。子どもが減っているから潰すというのはおかしいと思います。

東谷幼稚園で、令和6年度の入園見込みを調査するためにアンケートを取りました。3人しか希望者がいないという説明をしていましたが、何世帯にアンケートを取ったのかその場では言っていませんでした。聞いても教えてもらえませんでした。おそらく100世帯から150世帯くらいアンケートを取って回答があったのが3件というのが真相だと思います。97%、9割以上は回答していないのに、東谷幼稚園に入園を希望する世帯は3世帯しかないと感じさせるような情報の出し方はおかしいと思います。

越田市長は、私立と公立が一体になってサービスを提供したらよいと思っておられると思います。それは地域によって公立園がないところがあったとしても、私立があればよいし、それは可能だという考え方だと思います。私立は基本的にはお金儲けのためにやっています。持続可能な運営をするためにはお金を稼がないといけませんし、職員にも給与を払わなければなりません。他とも競争しているから親御さんの目を引くような英語などをやったりして、過剰なサービスをつけて園児を集めなければなりません。そういったサービスをしているからお金もかかります。一切それをしないのが公立園であり、逆に言えば特色がないのが公立園です。公立園でのびのび生活できてよかったと市民の方が言っておられました。特色がないのが公立の特色であり、お金儲けをするのが私立だと思います。私立だけ残して公立が手を引くというのは間違っていると思います。

最近ニュースになっているバスの置き去りや保育士の園児への虐待も公立では起こりえないと思います。置き去りは70歳を超えた男性の元園長がすっかり忘れていたという、考えられないようなことで子ど

もが亡くなってしまいました。公立ではあり得ないことだと思います。何かやらかしてしまうと普通の人の3倍も5倍も書かれてしまうという意識が公務員にはあります。公務員独特の真面目で、融通が利かないけれど高い倫理観があると思います。私立の職員にないというわけではないけれど、公務員独特なものがあるので起こり得ないと思います。

森友学園の塚本幼稚園がありました。安倍首相頑張れとか、平和安全法制国会通過、そういったことを子どもにやらせているのは異常です。そういった自由な教育が許されているわけです。越田市長には私立でも構わないということについて今話してほしいと思います。

(市長)

計画にも書いていますが、公私の役割分担ということが必要だと思っています。全ての地域で公立幼稚園、保育園が必要という考えには立っていません。公立幼稚園、保育園、こども園などの公立施設というのは、市内一定の数をつくって、そこを我々としては質を担保するところにしていくというのが基本的な考え方です。私立が行政と違うのは、行政はいくら赤字になっても税金を集めているので他の行政サービスを削ってでも赤字を補填していくことができます。そういった意味で公立というのは、経営を考えなくてもよいです。私立は儲けるためというより、その目的を達成するためには持続可能なファイナンスが必要であり、また自ら稼いでいるわけではなく、市からの補助金等があります。その経営が完全に民間のマーケットに陥らないように、一定我々が支援をしているという形です。ご意見やご提案を否定するわけではないですが、私としては公立と私立は役割分担で、そこで幼児教育、保育の体制を担保できると考えています。

(参加者)

もう少し具体的に踏み込むと、去年、ある園の運動会の練習を見ました。軍隊のようなことをやっていて、自分に子どもがいたら絶対に入れたくないと思いました。今やっている越田市長のやり方だと我慢して入れなければいけないわけです。清和台の人だけなぜ選択できない環境をつくろうとしているのですか。それで構わないと思っているのがよくわかりません。

(市長)

運動会が軍队的かどうかはコメントできませんし見たことがありません。基本的に、清和台だけということではなく、ご意見の理論を具体化しようとする、全ての歩いていける範囲、これは多分中学校ではなく小学校、もしくはもっと小さい範囲ということになると思いますが、そこで全て公立こども園がないといけないという理屈になってくると思います。清和台だけではなく、けやき坂、丸山台、美山台、東畦野山手も難しいと思います。限りある財源の中で、どのように幼児教育・保育を最適化していくのかということを考えると、それは公私の役割分担が必要であると思います。私立が勝手に何のルールもなくやっているわけではなく、一定の指導要綱の中で担保されています。もちろん合わない方はいらっしゃると思います。合わない方が、じゃあ公立の他に入れないかということ、それは入れます。そこで担保されています。清和台の方が他のこども園に入るといって選択肢はあります。そこで十分担保されていると考えています。

(参加者)

公立と私立は決定的に違います。全ての地域にあったほうがよいと思いますが、財政的な事情等があり

仕方がないとは思っています。去年の6月にバスを出すようにしてほしいと議会にお願いしました。市議会は住民の代表なのに、住民のほうを見ていないので不採択になりました。バスはなぜ出せないのですか。清和台幼稚園のランニングコストは年間3,000万くらいです。バスは何百万から一千万くらいだと思います。川西北こども園は6億円くらいで半分は国の補助です。実際に川西北には何億円もかけています。川西市は一般会計550億くらい予算があります。川西北には3億円出すのに清和台には出さないのですか。バスも出さないのですよね。仮に幼稚園を潰しても2,000万くらい浮きます。それでもやらないというのはなぜなのですか。

(教育長)

最初の質問も兼ねて、なぜ公立幼稚園を選ばれたかというところ、また、民間を選ばれる方というのは、1つはサービスということもあると思います。3歳児保育がある、バスを走らせている、給食があるといったこともあると思います。もう1つは教育内容、教育理念もあると思っています。その教育理念に、ある程度共感されて民間を選んでおられる方もおられますし、公立を選んでおられる方もいると思います。私も公立の存在意義として、早期教育といったことではなく、子どもの自立を尊重すること、遊びの中に学びがあるという形で教育をされてきたということについては、それは相応の意義があると思っています。先ほど越田市長のほうからもありましたが、これから子どもたちが少なくなっていくことは現在目の前にあることであり、市全体で見た時にどこに教育・保育のコストをかけていくのかと考えた時に、全ての地域で公立を残していくというのは難しいと思っています。もともと公立幼稚園の問題については、十何年前から実は話題になっていました。このままでは厳しいだろうという話の中で何度も話し合いを現場も含めてしてきたところです。

その中で、サービスの向上といったことは、幼稚園単体では難しいと考え、そうしたらどうするのかということで、地域の拠点となるべきところにこども園をできるだけ建て、公立としてのこども園を建て、そこで3歳児保育や給食といったことをして、同時に教育理念をそこで受け継いでいくという決断をしてきたというところがあります。多くのところが公立幼稚園を廃園し、民間でこども園を設立していくという流れの中で、公立こども園を設置するという決断をしたことは大きいことだと思っています。公立の幼稚園単体としてこれからやっていくのは非常に厳しい状況の中で、苦渋の選択ではありますが、整理統合をしていかざるを得ないというのは事実だと思っています。

民間に対して様々なご意見があるのは承知していますが、今年度から民間と公立と一緒に研修会をしたり、運営のための会議をしている中で、やはり民間は民間で努力されていたり、こだわりを持って取り組んでおられることはあります。もちろん持続可能な形にするためには、ある程度コストパフォーマンスも考えなければならない部分もありますが、それぞれに教育、保育に対して理念や考えを持って取り組んでおられます。従って、公立の持っていた教育の理念、教育の内容と同じように、民間も一緒に連携していく必要があるのではないかと考えています。

(市長)

バスの話ですが、数百万円でできるというお話でしたが、数百万円ではできません。川西能勢口駅から総合医療センターまでのシャトルバスでも半年で1千万円以上予算計上しています。一台運営するだけで年間2千万円くらいの費用を見ないといけません。巡回バスをどのようなルートにするかですが、一台で清和台のどこから、ピストンで、30~40人で一か所に進むのか、大体スタートの時間は一緒なので、複数台がぐるぐる回っていたらよいけれど、実際の費用と実際の効果と実際に皆さんが使うかということ、そ

んなに必要なのだろうかという印象は受けています。ただ、公共交通や移動をどうするかというのは、幼稚園だけの問題ではないので、そこはこれから皆さんの足、アクセスをどう確保するかというのはまた別の課題としてあると思っています。

また、川西北こども園のご提案をいただきました。建設費ということであるので、運営費はまた違う部分になります。川西北こども園に関して、なぜやったかと言うと、もともと2つあった幼稚園と保育園がそれぞれ老朽化してきていました。そこで単独で建て替えるのではなく、2つを1つにしていこう、しかも幼稚園のニーズが少ない中で保育所が足りないからこども園化をして1つのものを建てようという考え方です。そういったプロセスの中で、単に川西北こども園だけがぼんといきなり建ったということではありません。基本的に幼稚園、保育園の数を減らして質を高めるといふ、これからのまちづくりとしての大きな方向性の中で、清和台については公立でこども園を建てるとすると、これから20年、30年、もう少し長いスパンで、ここでこども園を運営するということは、そのニーズはないだろうと判断しているところです。

(参加者)

先ほどのある園の話ですが、私立というのは常にそのようなリスクがあります。その1点だけにおいても、公立不要というのは間違っていると思います。

教育長に質問です。清和台幼稚園の園児募集をしませんでした。それは教育委員会の裁量で廃園を決めたから募集しないとおっしゃっているようです。直接聞いたわけではないのですが、園児募集をしないことで集団教育ができなくなっています。集団教育をしたいと言っているにも関わらず、園児募集をせず、来年度から1人になります。教育委員会が自ら集団教育できないような環境をつくっていると思います。教育委員会の裁量で廃園に決めたとおっしゃったらしいのですが、それは普通に考えたらいけないことです。法令違反であると思います。その辺の認識を教えてくださいたいと思います。

(教育長)

教育委員会でそのように認識して廃園を決めたということではありません。それは間違った情報であると思います。最終的に廃園の条例をあげさせていただき、それを議会で審議いただくというのが正しい道筋です。今回もその手順に沿っています。なぜ募集しなかったかということですが、集団教育を進めていくのが幼稚園教育の大きな目的の1つですが、来年度、その集団教育ができるほどの入園の見込みが見込まれないという中で募集をしてしまうと、またそこで少人数の子どもたちが生活していくことになります。それはやはり教育委員会事務局としては避けるべきであろうということで募集をしませんでした。来年度お1人になられる方については、もちろん子どもさんの状況や保護者ともお話をさせていただきながら、他の園と交流するような形で何とか集団の教育活動を体験させてあげたいという思いで提案させていただきます。ご本人の状況や保護者の思いといったところと十分にすり合わせて考えていきたいと思っています。

(市長)

補足です。公立がゼロでよいということを行っていることではないということはおそらくご存じだと思います。手続き論なのですが、例えば黒川小学校が今回廃校となりましたが、40年入校していません。それが違法行為かと言うと、むしろもっと早くしておかなければならなかったくらいです。廃園ということに対しては、当然条例の議決事項であるので、民主主義の統制を受けた議会の中でご決定をいただくこと

であります。ただ、我々としては、廃園に向かっての方向性を示している段階の中であり、そのプロセスにおいて、どのようなところで募集を停止していくのかということは、執行権の中で対応可能な問題だということであると思います。違法ということには当たりません。

(参加者)

普通に1人ぼっちに行政がさせていること自体がかわいそうだと思います。教育委員会の裁量で決めた云々というのは、議会を傍聴していて何人かの人が公式の場で言っていたのに、それに対して行政が反論しなかったと思います。本当に言っていないのですか。会議録を見たらわかると思います。

(教育長)

そういった発言は一切していません。

(参加者)

今どき、1号、2号といったようにわかるのは世の中にマッチしないと思います。行政の方が常々言っているように、ニーズが長期間に移行しています。それで今、公立幼稚園は合っておらず、公立幼稚園の役目は終わったといった発言を先日されました。市民の方もされたと思うし私もそう思います。そこは、議論はないと思うのですが、具体的に言えば、清和台では新たに広く需要をつくっていけるような施設をつくっていただけたらと思います。もしできないならバスで行けるようにしてほしいと思います。不公平なやり方はしてはいけないと思います。清和台など市内の地域のみ公立を選べない、そういった不公平は行政はやってはいけないと思います。

(参加者)

清和台幼稚園の保護者です。去年の説明会に参加し、また、越田市長に先日お会いした時に何度も説明会をしてくださいとお願いし、今回このような場を設けていただきありがとうございます。個人的にはちょっと時期が遅いとは思いますが。去年の12月21日に教育委員会が清和台幼稚園にきて、1年存続するという話が出て、非常に保護者全員驚いていました。廃園とは決まっていませんでしたが、ずっと廃園には変わりはないと言われ続けてきました。廃園にはなっていなかったけれど、もう12月だし、廃園に向けて保護者会のほうも動いていたし、廃園しかないだろうと思っていた時に廃園ではないと聞き、どうしてそんなことが今さら起こったのかという気持ちでいっぱいでした。急に覆ったことに意味もわかりません。その辺はどうなっているのでしょうか。

(教育長)

最終的には廃園の条例を出させていただいて、それが議会で決まった時に決定だということはお話させていただいたと思います。市として、教育委員会としての廃園の方針は変わるものではないという話をさせていただきました。その中で、教育委員会としても廃園の方針で市長部局とも相談させていただきましたが、議会や色々なところの中でやはり今在園している子どもにもっと寄り添うべきではないかといったご意見や様々なご指摘をいただきました。今回、基本的な方針としては、1年延長せざるを得ないと考えた次第です。これは方針であり、廃園の条例を出しているわけではないので、最終的には教育委員会が廃園の条例を出した時に市議会で審査していただき、それで可決がいただけた時点で廃園という形になります。

(参加者)

廃園はいつか決まっていないのですか。

(教育長)

正式にはまだ議決いただいていません。以前からお話させていただいたように、教育委員会としては1年後を目途に条例を出させていただきたいという、今のところは方針で考えています。

(参加者)

清和台幼稚園の保護者です。他の市の状況も聞きました。去年の12月、他の市会合で、他市は令和6年になったら幼稚園は何園になる、令和7年になったら幼稚園は何園になるという報告をされていました。それに比べて川西市は100ページの計画を見ていると、清和台でさえも5年度末を目途に閉園にしますとか、東谷についても来年、再来年度という目途もたっていません。他の市との違いを感じます。他の市は計画性を持って幼稚園を閉じているのに、行き当たりばったりだとこの1年、2年で感じています。そこを今後、変えていってくれないと、このような体制が続くのはとても市民としては苦しい気持ちになります。

(教育長)

年度を期限にしてそこで廃園を決めるほうが保護者としても非常にわかりやすいという意見は聞いています。本市でも、残念ながら廃園になったところで言うと、年度で切ったところもあります。この辺はどう判断するのは難しいところだと思いますが、推測としてこれだけになるだろうということで年度を切りますと、本当にその通りになるのか、推測通りであるのかわからないうちから閉めるのはどうなのかという意見も多く出されるのも事実です。もう1つ、今回ご迷惑をおかけしたと思うのは、市の予測も合わなかったのですが、このままいくと清和台幼稚園が厳しいという話は以前からさせていただきまして、いずれ廃園にならざるを得ない状況であるということをご説明させていただきましたが、その中で予想よりもはるかに少ない入園者数であり、これはもう集団教育ができないということで、今回このような形になりました。この点については、ある程度人数はいても、今回踏み切るのが結果的には遅かったと思います。その時に年度をきちんと示しておくほうがよかったのかという思いもあります。ただ、同時に、今通っておられる子どもが例え7人、8人であってもおられるところで、年度を切るのが本当によいのかという思いもあります。

従って、今回市教育委員会としては、人数を判断の目途にさせていただくことにしました。これもよいところと悪いところがあります。実際に集団の教育活動ができなかった時点で判断するという意味ではできるのですが、じゃあいつになるかわからないし、そんな不安な状況なのでやめておこうかという場合もあります。閉園の手法については、今回のことは十分に踏まえつつ、今後、更にそのようなことが起こらないようにしていきたいのですが、何を決断の時として判断するのかというのはなかなか難しいところがあると認識しています。

(参加者)

清和台幼稚園保護者です。(保護者作成のプリントを独自に配布)「川西市立清和台幼稚園廃園問題の経緯」というプリントを見ていただきたいのですが、今まで越田市長と教育委員会等と2年4か月ほど清和台幼稚園の廃園の件についてお話をしてきました。上から読ませていただきます。令和2年9月28日です

が、こちらは私立と公立の願書受付の3日前なのですが、その時に市のホームページで川西市全ての公立幼稚園に対して、令和3年度の募集も含め開始するため、令和4年度の入園の園児募集を行わない可能性があるということが掲載されました。こちらは、令和4年度の入園児が願書を提出する時期が、私立の3年制だと令和2年の10月1日、公立の2年制だとその1年後の令和3年10月1日です。なぜかこの年から急に清和台地区の近隣の私立幼稚園では途中入園はできないということで、教育委員会もそれは3年制ということを知っていた中でホームページでの発表でした。ホームページの掲載が原因で令和4年度清和台幼稚園が入園予定のご家庭が、急遽私立幼稚園に入園することを決断しました。なので、このホームページは発表されてから3日後に私学に願書を提出したという経緯があります。次に、令和2年度11月15日に清和台幼稚園の存続をということで署名活動を開始し、越田市長へ5,772名の署名を提出しています。令和3年2月8日、清和台幼稚園の存続についてということで、越田市長と教育委員会、保護者会と未就園児保護者等の話し合いがありました。今、うちの子どもは年長児なのですが、その子が入園する前に私もいきました。越田市長と石田教育長より、令和4年度清和台幼稚園入園予定だった家庭へホームページ掲載の謝罪とともに、教育委員会は令和4年度の入園募集を行わない可能性があるということ載せられていると、それは不安であるということで、ホームページの書き方の訂正をお願いしました。越田市長には、清和台幼稚園は急な廃園はなく、令和4年度、5年度までは園児募集を行うということについてお約束していただいたのがこの日です。

次に、令和3年10月1日、清和台幼稚園の令和4年度の園児募集です。そこで廃園の可能性を、令和2年度9月28日にホームページに掲載したことによって、全ての公立幼稚園で令和4年度の入園児が激減しています。清和台幼稚園はその結果1名となりました。令和3年10月22日と28日、これは入園の年少児が1名になったということも兼ねてだと思のですが、清和台幼稚園における保育について教育委員会より保護者らへ説明がありました。その時に、令和4年度以降の保育について4歳児、5歳児の複式学級(合同クラス)の検討をご理解くださいということのお知らせを聞きました。その時に、前例のない川西市初となる複式学級の具体案もなく、園児減少に伴う予算削減の措置と知り、保護者らの不満が積もりました。その時に担任が1名になる可能性があるといった話がありました。保護者らで令和3年の11月29日に清和台幼稚園の今後の保育、複式学級について教育委員会と保護者らで話し合いをしました。その時に、複式学級に伴う4歳児、5歳児の教育の保証など、具体案がまったくなかったので、その要望書を提出しました。その時に、今後廃園になるかもしれないという可能性のことも含めて教育委員会の方にお伺いしたのですが、それ以後もずっとですが廃園の話になると話を逸らし続けられました。そのページの裏です。令和4年度2月14日、15日、「私立就学前教育・保育施設のあり方について(素案)」について、教育委員会より保護者らへ説明がありました。初めてここで廃園という文字が記載されました。以下抜粋ですが、清和台幼稚園は令和4年度園児募集(令和5年度4月入園児童)を行わず、令和4年度末をもって廃園としますということが素案に載りました。令和3年10月の願書受付の事後報告であり、この時点で令和5年度入園希望者がいる中で、園児募集も終わって4か月以上も経過した後にこのことを在園児保護者に説明がありました。令和5年度清和台入園希望者は在園児の保護者が知り得る人数だけで5名いました。その対象家庭へ教育委員会からの連絡は一切なく、在園児保護者が、廃園話が出ているということを知りませんでした。5名中2名は願書受付後の私立へ自力対応という形で、途中入園ができないという形になっている中、今決めてもらったら入園できますという形で入園できました。他の3名はこの時点では未定です。令和4年度2月末から3月、ここで初めて令和5年度入園希望者へ入園調査を教育委員会から郵送アンケートが出されました。素案も出ている時にも一切対象保護者は知らない、令和5年度予定している人は知らない、この時期に郵送アンケートだけあり、郵送アンケートを見ていないというお母さ

んもいらっしまったので、そこは対応が遅すぎるという話です。次に、令和4年3月15日、清和台幼稚園の廃園後の対応について越田市長、教育委員会と保護者らの話し合いがありました。公立幼稚園の必要性、転園児、支援児の受け入れ等なのですが、公立幼稚園の予算などもずっとお話させていただいておりまして、その中でも今後課題になることのお話しをさせていただいていました。清和台幼稚園が廃園となれば、同地区に公立の幼児教育施設、幼稚園、こども園、保育園が清和台にはなくなります。保護者会は廃園意向が変わらないのであれば、今後も公立幼稚園を選択できるよう、通園バス、巡回バスを一般市民も利用可能でもよいので通園手段がほしいという要望をさせていただきました。同日の話し合い後に越田市長へ要望書を提出、令和4年3月29日に越田市長より回答が届きました。その回答が黒丸のところです。通園バス、巡回バスの導入検討について、以下抜粋しています。市が通園するためのバスを運行する予定はありません。転園していただく方や、令和5年度に入園を予定されていた方については、お手数をおかけすることとなりますがご理解くださいますようお願いいたしますということでした。

次に、令和4年4月、私立就学前教育保育施設のあり方について原案策定、これは素案の公表から2か月後でした。令和4年5月10日、教育委員会と令和5年度入園予定だった保護者らと在園児保護者の話し合いがありました。既に素案、原案で同じことが記載されていたのですが、それを以下抜粋しています。令和4年度の園児募集（令和5年4月入園）に応募を予定していた児童については、保護者の希望を聞いたうえで、その実現に必要な入園の斡旋調整等の支援を行いますと書いてありました。新年度も開始している中、教育委員会は入園未定の家庭に初めてここで対応し、そこで初めてそれぞれの家庭の現状を把握しています。入園未定家庭は、公立幼稚園を希望していました。再度、ここで通園バスを教育委員会に求めたのですが、ここでは交通支援は一切ないと言われました。

次に、令和4年5月11日、私立就学前教育保育施設のあり方について（原案）教育委員会より保護者らへ説明がありました。以下抜粋していますが、素案を広く公表させていただくとともに、各方面からご意見をいただいたところであるとありますが、この内容を子育て世代で素案の状態を知っていたのは在園児保護者のみでした。令和5年度の方さえも知らない状況なのに、なぜ「素案を広く公表させていただいたとともに」という言葉が使われているのかも疑問です。教育委員会に対して清和台住民にも早く説明会を開催すべきと何度も訴えたのですが、まったく積極性は見られませんでした。ですが、なぜかこの5月11日に在園児保護者らへ10日後に説明会を開催しますということでチラシの配布がありました。在園児保護者も10日後ということで、なぜこんなに急にという声もあった中、次のページの令和4年5月16日、これが先ほど言っていた令和5年度の入園予定だった保護者たちと話し合いをしたお話が6日後でした。この時に越田市長と教育委員会と令和5年度入園予定だった保護者らと在園児保護者らで話し合いをしました。その時に、6日前までは教育委員会は交通支援は一切ないと言っていたのに、なぜかこの日急に越田市長、教育委員会より突然、令和5年度入園予定で幼稚園が決まっていない方に限り交通支援を考えている、今後具体的に検討し、幼稚園の希望を含め個別対応していくという急展開になりました。支援してもらえるのでよかったという形で、その日は終わりました。

次に、令和4年度5月21日、6月29日、8月6日、清和台幼稚園の廃園決定後、清和台地区説明会が計3回ありました。その説明会の案内見出しなのですが、それが「市立清和台幼稚園のあり方について説明会を開催します」とあり、説明文を注視しなければ要点が廃園ということがすぐわかりづらかったです。説明会は市の周知が不十分であったため、参加者は在園児保護者、関係者の9名のみでした。教育委員会は住民への廃園説明会を一度きりで終わらせようとされました。在園児保護者は周知方法の改善と再度説明会の開催をしてくださいとお願いをしました。先ほど公立幼稚園の予算などを3月15日だけではなく、今まで何度も何度も話し合いをさせていただいたのですが、いまだに廃園後の主な課題として残って

いるのが、転園児、支援児、みなし園区等の対応、交通支援で廃園後も清和台幼稚園から公立に通う選択肢がほしいということをおっしゃっています。計3回の説明会では、毎回質問を持ち帰る場面が見られるも、次の説明会で明確な返答が得られないこともありました。また、説明会のたびに話の收拾がつかない状態で、時間の都合上強制終了となり、結論が出ないまま3回の説明会が終了しています。その説明会のまま、ここで初めて市長にきていただいているのが今日です。令和4年7月23日、越田市長のツイッターへ市民の方から越田市政が行う通園支援、タクシー代に疑問の声が上がりました。そこで越田市長は、ツイッターの返答をしております。以下抜粋です。入園先の斡旋や通園支援については、当事者の方や現在通園されている保護者の方からご要望をいただいた内容ですという形になっていたのですが、支援方法は市が決めたことで保護者らは一切関与していません。それはこのことが挙がっていることもツイッターで初めて知りました。急に支援しますということも、これも個別対応でということはこちらもその後はまったく知らず、初めてツイッターで知りました。令和4年7月27日、これが市長の定例記者会見の7月補正予算案で、記者の方が私立清和台幼稚園の廃園に伴うタクシー送迎についてという質問に対して、越田市長は市のホームページの市長ページのところで回答されているのが以下抜粋です。廃園により通園できなくなる児童へのサポートは、市として必要であり、保護者会からの要望も踏まえより現実的かつ効果的な移動支援としてタクシー送迎を実施するとあります。保護者会は今後も公立幼稚園を選択できるよう通園バスを要望していて、タクシー支援は一切お願いしていません。ツイッターも市長のホームページもどちらも保護者会や保護者らが要望しているといった書き方になっています。これは保護者会や保護者らは一切関与していません。それを令和4年の8月12日に越田市長にタクシー支援の経緯における事実説明と訂正を求めるといってお会いしました。その時に越田市長はツイッター文字数制限があり訂正は難しい、市のホームページで説明すると主張されました。保護者らはツイッターでの問題のため、ツイッターにリンクを張り、ツイッター、ホームページともに明確な説明と訂正をお願いしています。ですが、令和4年8月17日、越田市長は市のホームページのみで発信され、内容もかなり不明確で訂正も見受けられませんでした。越田市長へ清和台地区の説明会にとりあえずきてくださいとお願いしました。

次に、裏ページです。令和4年9月15日、清和台幼稚園廃園案が継続審査となり廃園となります。令和4年10月11日、越田市長と選挙活動中にたまたま東池公園で会いお話をしました。継続審査中に越田市長は廃園の意向は変わりませんという発言と、清和台幼稚園をこども園化という署名活動がある中、清和台にこども園の考えはありませんと断言されていました。廃園なら廃園に向けての今後の対応を明確に具体化してほしいということと、年長児は卒園を迎える中、年長児保護者らは幼稚園の行く末の区切りを知り前に進めたいという話を伝えました。越田市長へとりあえず清和台地区の説明会にきてくださいということをお願ひして、他の方もお願ひしていただいている形でここにきていただいていると思います。令和4年12月21日、市立清和台幼稚園の今後の対応方針等について、教育委員会より保護者らへ説明がありました。清和台幼稚園の廃園を1年延長、途中入園園児募集なしという形で、ここで初めて越田市長は、廃園意向は変わりませんと言っていたのですが、ここで廃園にならず1年延長になり、途中入園なし、園児募集なし、先がない1年延長はなぜなのだろうというところで、一連の清和台幼稚園の廃園問題を2年4か月で記載させていただいています。在園児年長保護者の思いで、最後は書かせていただいております。越田市長、教育委員会の不誠実な対応、かつ計画性のない失態が続き、今回の清和台幼稚園廃園1年延長は誰1人報われない結果を迎えました。令和4年度、5年度の入園予定だった家庭への影響はもちろんのこと、令和2年度のホームページが原因で清和台幼稚園は、令和4年度入園園児は1名となりました。現年長児は年少児との複式学級により最高学年としての区切りがなく、入園当初に思っていたものと異なりました。園長先生方は動揺する子どもたち、保護者らに寄り添い、複式学級を教育的に意味ある園生活へ

とつなげてくださいました。卒園まで残り少ない時間、廃園と言われつつ正式な発表はないまま、廃園準備を進めていました。そんな中、突然廃園1年延長と知らされ驚愕しました。越田市政の令和4年度、5年度入園までは園児募集を行う約束さえ守られていたら、入園予定だった方は清和台幼稚園に入園できました。なぜこの時期にこのような結果になったのか、幾度となく繰り返される理解しがたい市の対応に最後まで振り回されました。越田市長、教育委員会は清和台幼稚園の一連のできごとを原因追及し、今後控えている廃園後の課題や、小学校の統廃合問題などに活かしてください。その際、地域住民の声に耳を傾け、未来ある子どもたちのためにも具体的な計画を持って取り組んでいただきますようお願いいたします。本日、清和台幼稚園年長児保護者一同という形で説明させていただきました。越田市長とお話させていただいているのは、全て録音させていただいておりますのでこちらに載せていただいているのは全部事実です。

(教育長)

最後に書いていただいている部分が一番の思いであると思います。個々のやり取りについて、気になる点がいくつかあります。それはあえて私の考えをお話させていただきたいと思います。

1ページ目の一番下、複式学級のご説明をさせていただいた時に、廃園話になると話を逸らし続けたというのは事実ではなく、廃園について市の方針はまだ決定していませんと説明をしました。決定していない中で保護者会の中でそういったことを話すのは無責任であるので、今回は複式学級のことに限定してということと言わせていただいたということです。今からお話することは見解の相違もあるかと思いますが、私もそのようになってしまうのは嫌なので論点にはしなかったということです。逸らし続けたということではなく、市としての方針、市教育委員会としての方針が決定していなかったのが1点です。

3ページ目の通園バスのことです。ここは私も保護者会でお話をさせていただきました。確かに廃園後も通園バスを走らせてほしいという要望はお聞きしました。それについては現状難しいですというお返事もさせていただきました。そうした中で、入園予定だった子どもたちも、現在通園している年中組の子どもたちだけでも何とかならないかという要望をいただいて、入園予定だった子どもたちに違う園を選んでいただく時に、通園方法を支援することはあり得ると私は思いました。それを私は受け取ったので、市長にすぐに相談にいかせていただきました。そこで市長は私の報告を聞いて決断をされたのが経緯です。もちろん第一の希望は廃園後の通園のことを言われていたのは事実ですが、入園予定だった子どもたちや保護者にも通園支援はせめてできないかというのを聞いたのは、私は認識しています。そういう中で、私からそういった報告を市長は聞かれているので、それ以降の市長の発言になっているということがあります。

ホームページに今後、入園募集を行わない可能性があるということについてご指摘をいただいたのは事実です。市教育委員会としては、園児が急激に減っていく中で、急激に減っている状況についてある程度情報を流すべきではないかという判断をしてホームページに載せさせていただきました。ただ、ご指摘をいただいたとおり、この入園募集の直前の時期に出すのはやはり適切ではなかったのではないかというご指摘は受けました。私もそれはそのとおりだと思いました。2歳の園児が対応できるようにするためには、もっと早くに出す必要があると私は判断しました。そのような情報を出す時期がずれてしまったかと思ったのでご迷惑をおかけしましたということでお話をさせていただきました。先ほどもお話をさせていただきましたように、清和台に限らず現状の幼稚園の状況についてはできるだけその都度の情報を流していく、そのうえで保護者の方がどうされるか判断するということが私は大事だと思っています。もちろん廃園という方針を出すというのはなかなか厳しいことですが、入園児が非常に激減している状況や、そういった状況の中で廃園を考えなければならない状況であるという事実は、これから入園する方には適切にお知らせ

して、そのうえで保護者が判断されることだと思っています。そのような経緯がありました。結果として入園児数が減ったではないかと言われたら、もしかしたらそうかもしれませんが、少なくなってからというよりは、その選択肢の余地を情報として伝えるべきではないかと今も考えています。

市教育委員会としての廃園という方針、それを市長部局とも懇談をしていく中で廃園という方針を出させていただきました。ただ、説明会の時にも申しあげましたとおり、最終決定は議案として提出した時に議会が承認することによって正式に決まります。廃園とする方針自体は市教育委員会も市長部局もそれは揺るがなかったところです。ただ、やはり議決権を持っている議会からのご指摘を受けて、今回このような1年延長という形になったということです。これがご迷惑をかけているということは私も認識をしています。ただ、方針としてはぶれてはいないけれど、議会からご指摘を受けたことでそのような結果になったということについては、ここにも書かれているようにご迷惑をおかけしたと考えています。今後、状況の振り返りをして、この計画にあります幼児教育、保育施設につきましても考えていきたいと思っています。

(市長)

双方理解している事実の部分と、皆さんの感想や思いの部分は、ぜひわけていただきたいと思います。事実として、清和台幼稚園がなぜこのお話になったかということ、資料の98ページにも書いてありますが、令和元年度、幼児教育無償化ということで公立も私立も基本的な保育料が無償化になっています。ここは非常に大きく公立幼稚園の入園者数が影響しているのは事実です。実際に他の幼稚園でも平成30年度から令和元年度、もしくは令和2年度に向かっては減少しています。まずここが大きなきっかけです。清和台幼稚園に関しては、令和2年度も入園者が6名になりました。それを受けて私たちは危機感を持っていました。その募集の際にはもっと早く書いたらよかったということもあるので、そこについてはお詫びをして修正をするということにさせていただきました。ですから、事実としては川西市が突然潰すために仕掛けたというように印象づけられるようなやり方というのは、私の見解とは違います。そのことをまず申しあげたいと思います。

園児募集のことについても私も覚えています。質問の中でこれから何年後くらいですかということ、前提条件としてはこれも解釈が違ってもいいかもしれませんが、私は明確に中長期的に清和台幼稚園が公立幼稚園として存続するということは将来的には考えられない状況だと、それは概ね私の中では意見相違の方もいらっしゃると思いますが、それはそういう雰囲気があると感じました。感じたということなので皆さんがどう思われたのかはわかりません。そのうえで、やはり2年制の幼稚園と3年制の幼稚園があるから、そこはちゃんと時間を取っていただきたいということなので、その時点で廃園と決まっていますから、現時点で令和4年度、令和5年度は入園を行うといったことの説明をさせていただきました。約束と言うと、わかりました、ちゃんと受け入れますというような表現になりますが、行うと私が発言したら約束であるし、表明と言えは表明ですが、何か要望があって手を握ったということではなく、そういうご質問に対して私は答えたというように解釈しています。これも解釈の違いです。ただ、少なくとも私がその方針だということを表明しましたので、それを信じていただいて待っていただいた方が令和5年度の方にも若干干らっしゃいましたので、その方たちに対しては個別にこのようなお話で、かといって5年度お1人のところに少数の方がお入りされるということが本当に集団教育としてよいのかということ、再度我々として考えた結果、その方針というのを変えるというお話だったというのが今回のお話だと思っています。

1ページ目の「園児減少に伴う予算削減の措置と知り」というのは、意味がわかりません。当然幼稚園の子どもたちが減ってクラスが1つになったら担任の先生はお1人になるけれど、そこもこんなところが

不安だというようにお話をいただいた部分についてはかなりの部分、教育委員会で対応をしたのではないかと考えています。

少なくともお話しの中で、何らかの移動の支援というものは必要だということ、バスをご希望されたわけですが、バスであれば一千万円以上の費用がかかるのでそういったものはないでしょうが、来年度以降のことを考えると、これから入る予定であった方、そして今在園の方に対しては何らかの移動の支援が必要だということで、それは皆さんの要望の中で具体的にタクシーという要望はされなかったかもしれませんが、何らかの移動支援がほしいということだったと思います。バスを要望されたということは何千万円ということのご要望なので、さすがにそこは無理だけれど、その方たちに対して次にいく場所をしっかりと探して、そこに対して移動支援をするということは私たちの責任としてやらなければならないということの判断をしました。ご要望をいただいて今までノーと言ってきたことを、でもやはり改めて我々としては協議をしてマルだと言ったら、突然マルと言ったというように書かれると、そこは見解が違うのではないかと思います。これは見解の相違ということかもしれません。どのように進めていくのかというのは、廃園というのはそれぞれの生活に関わることなので非常に難しいことです。100点満点だったとは思っていませんし、皆さんからしたらもっとこうしてほしいかということがあるというのは我々としては真摯に受け止めています。

ただ、例えば令和2年、3年というような形の時に目標を決めてやると、それはそれでなぜその目標なのかということになります。客観的な事実はあくまで予測値です。予測値でやると、予測が外れたらどうなるのだということで当然そういった議論があるわけです。我々としてはトリガー方式というもの、この方式は方式として一般的な方法でもありますから、保護者の方に不安な部分はあったけれど、より子どもたちが集まるのであれば、それは存続をしていくというルールの中で進めていったという経緯があり、これはやり方としてどうだったかということはお意見があることはわかります。皆さん方が今回の進め方に対して厳しいご意見をお持ちだということは私も認識しています。そこに対してご迷惑をおかけした部分、ご不安に思われた部分、不満がある部分というのは私も申し訳なく思っております。私たちとしてはその時点、その時点でベストは何かということを考えてやってきたつもりでございます。いただいたご意見も今後の市政運営に活かしていきたいと思っております。

(参加者)

教育長がホームページの記載時期についてはまずかったと言っていたらいいと思います。そう認識していただけて嬉しいのですが、それを令和5年度の入園児に活かしてくれなかったという思いがあります。

(参加者)

私学の願書が途中入園できないと言っている中で、市の願書が受付を終わっている後、素案で廃園案が出ている状態で郵送でのアンケートになり、その対象の保護者らが一切知らない状態というのは、令和4年度の反省は活かされていません。令和4年度2月末から3月の時点での郵送アンケートはあまりにも遅すぎます。そこは反省していただいているのであれば、まずこの郵送アンケートがこんな時期にはならないと思います。それは反省にはなっていません。

(参加者)

市長がおっしゃったように、資料として感情が乗っていたりと不十分であったと思います。それは本当に申し訳なかったと思います。ただ、私たちがこれをどんな思いでつくったのかというのを感じ取ってほ

しいと思います。

(市長)

繰り返しになりますが、このような文章を書かせてしまう状況だという、そのような運営に結果的になったというのは非常に申し訳なく思っております。ただ、資料として紙で書かれる部分の解釈が違う部分はすり合わせていただいたほうが、私たちとしてもよかったですと思います。補足になると思いますが、なぜ5年度に突然そういうことになったかと言うと、我々は幼児教育保育施設のあり方をしっかりと見直していくと同時に、清和台幼稚園をどうしていくのかということとを別途協議をしていく、その結果もう1年やるのか、どうしようかということをお考えしました。突然不用意に出したということより、その時に令和4年度の入園者がお1人であるということ、令和5年度の方は資料では5人いたとおっしゃっていますが私たちはそれを確認できていません。少なくとも非常に少ない人数であるということの中で、個別にお話をし違ふところを斡旋していくといった方法のほうがよいのではないかとということで募集停止をしようというプロセスであったというように思っています。むしろ色々ご意見をいただいたから、じゃあこのような子どもたちがいるのでちゃんと対応しようという動きになりました。皆さんからすると、答えが少し違ったのかもしれませんが、私たちとしてはその意見があったからこそこういうやり方にしていこうかという調整をさせていただいたというのが私の解釈です。

(参加者)

そもそもまず市がどれだけというのを知っているべきだと思います。令和2年よりも前の段階から清和台幼稚園が6名だったという情報があるのに、そこも活かせずに結局ホームページに載せるのは願書受付の3日前であり、その時点で先を見越して3年後に廃園と言われればこちらにも計画を立てます。急に出してきて、でも市のほうでは把握していたと言います。市の把握がこちらに伝わっていないから、結局このような形になって当事者は知らなかったとか、募集はここまですると言っていたのにその約束を守らなくて結果知らなかったとか、でもそちらは把握していないというのはおかしいですよということをずっと言い続けてきました。そこがまったく違います。タクシーの件も書き方によって見たら、保護者がやっているようにしか見受けられない文面を出しているの、私たちからしたらずいと思ってしまう。結果このように要望しましたよねというように確認されていますが、要望が形として結果が違うのにタクシー送迎は保護者らがという、そのような書き方をこのまま載せてもらっていますが、別にこれは感情でもないのここはおかしいです。

(参加者)

令和5年度末に閉園で、今後は合同保育をしていくということです。結局そこもまだ決まっていないのですよね。保護者会で今から卒園に向けてお別れ会や先生たちへの感謝のアルバムづくりなど色々していくのですが、来年度に向けても存続するのであれば保護者会として来年度どのようなイベントがあるのかといったことをしていかなければいけません。市で決まって、幼稚園で決まって、保護者会に下りてくるので、その見通しが立たず動けません。この資料をつくるにしても、保護者会の運営にしても、家庭があって子どもたちが幼稚園で遊んでいる間に家事とは別にそのような活動をしています。時間がない中でまだ決まっていないというのは困ります。

(参加者)

本来なら教員委員会と市長がしっかりとやってもらっていたらこのようなことにはなっていません。

(参加者)

9月に決まっていればよかったのですが、それが12月に出てきて、12月になっても決まっています。今もまだ決まっていなく、卒園まで1か月ちょっとです。12月からも色々な保護者が今後の見通しが立たず、でも何かやらなければならないので気分が落ち込んだりしました。うちの園長先生ともあまりお話しはしないのですが、それでも毎日顔を合わせていたら元気がないのが保護者にも感じられます。ちゃんと計画を持ってやっていただかないと、市は決定するだけでよいけれど、園や保護者はそれを形にしていけないといけません。今後様々なことを決めていかれると思うのですが、私は最初から関わったわけではないのですが、今回の出来事は本当に行き当たりばったりで、臭いものに蓋をするみたいな印象しかありません。そこをきちんと市の中でも頑張ってもらいたいと思っています。

(教育長)

年度で廃園時期を明確にして、3年後、4年後という形で出していくということは、保護者としては時間的な余裕を見た時にはわかりやすいのではないかと思います。こういった論議が実際の現場に負担をかけているのは私も認識しています。従って、ご指摘があった部分は、今後振り返りをしながら活かせるものは活かしていきたいと思っています。確認ですが、来年度廃園予定というの、市、教育委員会としての方針ですので、最終的には議案を上程して市議会で議決されたものが正式決定という形になることだけはお話しておきます。ご負担をかけたことについては申し訳なかったという気持ちです。

(参加者)

在園児の保護者です。市長、教育委員会の方々がこちらにこられました、大きな趣旨をまずお聞かせください。どのようなお話にこられましたか。

(教育長)

冒頭にお話させていただきましたように、市として子ども・若者未来計画をパブリックコメントに挙げていますので、その一環としてご意見を直接聞かせていただくことです。パブリックコメントであるので、市長と一緒にこさせていただきました。

(参加者)

今日の意見は今後活かされるのですか。チラシには「よりよい市政運営と地域の活性化の一助とします」とあります。今日のこの話し合い、話し合いにもなっていませんが、閉園ありきの清和台幼稚園に関して今日のようなお話は前回までと何も変わらないと思いますが、どのように清和台やこのエリアの地域活性化につながるとお考えですか。

(市長)

パブリックコメントというのは、基本的に市がこのようにやりたくて、このように計画を考えているのでご意見をくださいというものです。もちろん賛成の意見、反対の意見もありますが、ここで多数決を取って反対の意見が多かったらやるかやらないかということではなく、我々がこれを進めているうえでどう

いったお考えがあるかお聞きするものです。ですから、マルかバツかと言われて、これでじゃあ廃園をやめてという意見があったから我々が廃園をやめるということは、今はもう既にそこで廃園をやめるつもりはないということです。ただ、ご意見として受け入れるところ、我々の視点の中でないところがあれば当然それは受け入れます。

(参加者)

公立幼稚園の運営というのは厳しいのは全国的な問題として同じだと思います。色々な自治体の事例があると思いますが、この近くだけでもどのような事例があるのかご存じですか。

(教育長)

近隣自治体では公立でこども園をつくっているところは非常に少ないですがあります。幼稚園単体で3歳児保育をされているところを選択されているところもあります。また、自治体の立地条件などもあります。公立幼稚園を廃止して民間のほうに委ねるという自治体もあります。

(市長)

これ知っていますか、知りませんかと言われてたら、それは全部知っているわけではないです。ただ、どのまちかということに限らず、一般的に今公立幼稚園というものを廃止してこども園化するとか、公立幼稚園が単独で存続をするということを強化するというトレンドにはないと把握しています。むしろ公立幼稚園1号認定のところはこども園化する、もしくは私立に委ねるということがトレンドとしては多いと把握しています。

(参加者)

私はそういった把握ではないです。近隣で言うと、猪名川町さん、宝塚市さんに私は直接お話を聞きしました。もちろん子どもは減っています。猪名川も宝塚もそうですが、今のこのような話し合いを3年から6年くらい前から地域や保護者らと重ねられています。閉園にしても統合にしても、長いスパンをかけて計画を立てて決めていきます。猪名川町さんに関しては、その話し合いのもと、町内の公立幼稚園に関しては2つに統合されました。更に3年保育も実施されます。給食も実施されます。片道1.5キロを超えるご家庭に関しては通園バスも巡回します。話し合いを重ねて時間をかければ、こういったことが実現できるわけです。川西市さんはどうですか。話し合いも重ねられない、一方的な閉園ありきのお話だけを毎回持ってこられて、こちらの保護者や地域はまったく納得できないまま時間がきたら終わりです。

次回の話し合いで何か前向きなお話があるのかと思えばそうでもない。私が言いたいのは、閉園するという話だけがずっとあります。仮に閉園するとして、清和台、けやき坂はずっと言っていますが、どのように公立のこども園、幼稚園を選択して通園するのですか。先ほど市長は公立の選択肢はありとおっしゃいました。実際、牧の台みどりこども園でも昨年度、5人くらい園区外のお子さんには入れていないとお聞きしています。そのような現状があるのに清和台やけやき坂エリアの子どもたちはどうして公立の園の選択肢があると言い切れるのでしょうか。

(教育長)

そういった対象のところについては、みなし園区という形で希望される園区の子どもたちと同じような取扱いにさせていただきます。仮に清和台地区の子どもが東谷幼稚園を選んだり、牧の台みどりこども園

を選んでも、その選んだところの園区と同じ扱いにするということです。

(参加者)

園区とみなしていただくのはよいのですが、どのように通園するのですか。幼稚園に関しても、どうなるのかわからないのですよね。うちはまだ1歳の子供がいます。どうやってその子供の未来を描いたらよいのですか。幼稚園や保育園というのは社会に出る第一歩です。その存在がどうなるのかわからないというふわふわした情報ばかり流されて、神戸市や宝塚市と猪名川町くらいしか私も忙しいので調べられませんが、たったその3つを調べただけでももう5、6年以上前から子供の減少というのは目に見えていました。これは職員さんがおっしゃっていましたが、そんなことはずっと前から見えていたので計画を持って話し合いを重ねて、もちろんその間には色々な問題や意見も出てきますが、話し合いを重ねられていけば双方に折り合いをつけられますよね。話し合いというものがまったくない中、常に一方的です。こちらも色々言います。言いますが、それは持ち帰っているだけで次に何かお返事があるわけではなく、バスに関して検討してみますということです。もちろんある程度の自己負担が家庭に発生するのは承知していますし、それでも構いません。全額支援なんて考えておりません。自己負担はあって当然だと思いますが、何かしら工夫をしてバスを走らせるなり、バスを走らせられないのであれば幼稚園をどのようにして存続していけるかと考えていただけませんか。

何もこども園にだけにこだわる必要はないと思います。宝塚も3年保育というのも公立幼稚園の中で実施されています。色々な事例がある中で、川西市さんには何も前向きな提案や発想も話し合いもない中、もう潰す、将来的にはゼロでもよい、こども園が北と南に2、3個ずつあればよいと言っているように感じます。北はもう牧の台みどりこども園しかないですね。つくる気もないですね。もう白紙になるかもしれないという話も聞きました。それでどうするのですか。清和台、けやき坂、この辺りの方は公立という選択肢はまったくなくなりますよね。やはり私立には私立のカラーというものがあります。そこに共感できる方はそこを選択したらよいと思います。だけど、そうではなくて公立のよさというものは教育長もわかっているとおっしゃっていただきました。やはり地域と密接に関わりながら、子どもが地域の方や近隣の小学校と関わりながら色々なことを学んでいくすごく良い環境だと思います。その良さを、子どもが減っているから潰す、その発想しかない中、一方的にこのようなお話をずっと持ってこられても納得できないのは当然だと思います。納得できないから文句を言っているだけではなく、保護者や地域としても何か協力できることがあればもちろん協力したいし、このような意見交換会という場を設けていただいたのはすごくありがたいと思います。これを意見交換会とするのであれば、ぜひ今後もこのような場を設けながら、じゃあ清和台、けやき坂、この北部の地域をどうしていったらよいかという前向きな話をしたいんです。明るい話をしたいんです。在園保護者だけではなく、これから子育てをするという方にとってもどう考えても明るい未来を描けないような地域づくり、まちづくりをされようとしているのかと思います。私立はあります。人数でカバーはできると思います。子どもは減っていますから。だけど、そこから公立の選択肢を奪うということがどれだけ大きいことなのかをもう少しご理解いただいたら、こんなに唐突にお話を進めるということではできないと思います。市長も教育長も一度でも清和台幼稚園を含め、公立幼稚園で楽しく過ごしている子どもたちの姿を見られましたか。

(教育長)

年間通じて各園所、学校も含め訪問しています。

(参加者)

どのような訪問かわからないですが、ぜひ日常を見てあげてほしいです。先生が少人数という中で色々な工夫をしながら指導してくださって、どんなに楽しく過ごしているか、人数が少ないイコール、幼児教育が成り立たないというのはものすごく短絡的なものの見方だと思います。少ないからこそ、1人1人が責任を持ってやっていけることも多いです。経営という面で言えばお荷物なのかもしれません。公立幼稚園を存続させるためにはもちろん皆様の税金で成り立っていますので。でも、どうしてこのような現状を招いているのかと言ったら、近隣の市町村を見てもらったらわかりますが、川西市さん側に責任があると私は思っています。どうして今頃こんな話をしているのかと本当に悔しくて仕方がないです。今日のこのパブリックコメントというのを聞いて、資料にまとめて何となくやりましたという形にするのではなく、前向きなお話として活かしてほしいです。

(教育長)

猪名川町さんはそのように地域とお話をされたということで、それがどのような経緯で計画に反映されたかというのは別の話かと思えます。私は猪名川町民ですが、やはり立地のこと、交通のことは猪名川町とはずいぶん違います。それから民間の施設のありようも違います。そういった中でお話し合いをされてきたので、それをどれだけ反映したかは把握していません。おっしゃるとおり、意見を聞くところにもう少し時間をかけてほしいと言われることはよくわかります。子ども・子育て計画については、2年間の途中経過の見直しという形になっています。若者育成支援計画と一緒に、また2年後に見直します。今のところ、今出させていただいたような方針で、まだぼわんとしているところもありますが、そこは地域のほうに入って協議していく必要があると思います。清和台幼稚園については、これは厳しい状況であるというのは認識していて、先ほども言いましたように説明にもこさせていただいて、コミュニティに主催していただいて説明をさせていただきました。市長にも参加していただいて本当に厳しい状況であるというお話はさせていただきました。それが十分かどうかは別にしてです。ただ、これは教育委員会の責任でもあります。急減に減って1人になった時点でこのままではいけないということで急遽こうなったということもあり、その唐突感のことをおっしゃられているというのはわかります。もう少し早い時期に決断しておくべきであったという思いはあります。それはそれでまた色々な軋轢はあると思うのですが、そういうところで言うと今おっしゃったような形で協議する場面や反映する場面を考えていかなければならないと思います。以前から公立幼稚園の良さは言っていましたし、それは私も子育てをしていく時の1つの理念として大事なことだと思います。ただ、一方でやはり自分も行政を預かるものとして、今までのように右肩上がりであれば色々なことができたのですが、どう集約してどこに投資していくのかということも同時に考えていかなければなりません。

もちろん適正配置して統合したり廃止するのは、どちらにしてもつくる話より厳しい話です。同時にこれからの子どもたちを見た時に、どこに注力していくのか、限られた財源の中でどこをどうしていくのかということについては考えていかなければならないと思います。その考えていく中で、今言われているような意見は聞くべきだと思います。ただ、全体を見た時に保育所の方、こども園の方、保護者の方、地域の方、学校教育の保護者の方もおられるので、教育・保育だけで言っても多岐にわたるところでどのようなところに力を入れていくのかということについては、やはり決断をせざるを得なかったということがあります。言われているスパンのことについては、ここの計画でできるだけ相談しながら具体的な話ができるものを考えていきたいと思っています。

(市長)

前向きな話をしたいというのは、私もそのとおりです。基本的には、人口が減っていくなかで、コストの話はとても大切で、皆さんから預かった税金をどうやって市民の幸せのために使っていくのかと考えると、できるだけ集約をしていくということで、確かに全部歩いているところで公立幼稚園があり、市立幼稚園も選べるというのはすごくよいことだと思います。でも、既にけやき坂で言うと、そもそも公立幼稚園は歩いていけません。ですから、基本的に公立幼稚園か私立幼稚園は選択しています。ただ、歩いて公立幼稚園というところまで全てそこを保障しきれるかと言うと、現時点でもできていないし、これをもって清和台幼稚園がなくなったから、その保証ができなくなるからおかしいのだという論には立っていないということです。一方で、少人数でよいというお話も伺います。私たちが少人数の幼稚園をめざして少人数になっているのであれば、少人数の幼稚園は残すべきです。我々は少人数の幼稚園をめざしたわけではないけれど、少人数になりました。確かにもっと時間をかけるということでは、例えば小学校であればおそらくもっと時間をかけるのだと思います。なぜかと言うと、小学校は選択肢がないからです。やはり子どもたちは校区外の学校に行くという選択肢はほとんどありません。集約するというのは、入った時点から逆算をしてということになると思いますが、我々も公立幼稚園の取り組みで非常の難しいのは、もっと時間をかけて6年前に言っていたとしたら、やはりそういう検討が始まるといった旗を上げた瞬間で減っていく傾向になってくるということですから、初めから6年間かけてお話し合いをするつもりだったのか、結果かかったのかは私にはわかりません。ただ、皆さんからしたら議論が少なかったのではないかというような印象を持たれているということは受け止めたいと思います。ゼロでよいと申しあげているつもりはなく、北部には牧の台みどりこども園、中部は多田幼稚園と多田保育所がありますので、これはどこかで集約をしてこども園にしていきたいと思っています。多田の地域は非常に場所が狭いということもあるので、場所をどうしようかということがまだ決まっていない段階で何年ですと言ってしまうと、場所を新たに買うわけにもいかないので、幼稚園のところ建てるとか、保育所を建て替えるのか、多田東か、他にあるかといったレベルで方向性としては多田のほうでいきたいというように思っているということは、この計画のお話ですし、お話をさせていただきたいと思います。

(参加者)

けやき坂、清和台エリアの子どもたちは、多田幼稚園、もしくは多田こども園に通えると思っていてよいですね。

(教育長)

多田こども園が成立した時に、みなし園区ですので、多田に限らず希望される方が川西北こども園かもしれませぬ。ここの園区と決めずに、みなし園区ということですので基本的にはそこに入っていたら、その園区の子どもたちと同じように対応させていただきます。

(参加者)

どうやって通うのですか。歩いてとまでは言いませんが、今でも車で送迎しています。不便ですが、それはこちらの選択ですので車で送迎しています。牧の台にしても更に遠くなります。多田がきちっとお話を進めていただければそんなに距離は変わりませんが、多田も休園の可能性といったことを書かれていますよね。そういうお話になってくると、本当に選択肢はゼロです。ゼロにするつもりはないとおっしゃいますがゼロです。そのような状況を生み出さないようにこれだけはお約束させていただきたいです。もしく

は今からでも清和台幼稚園が随時園児を募集されて3年保育でもされたらよいじゃないですか。1人いらっしやいます。3年保育など新しいことをされてみたらどうですか。複式学級だって今の保護者の方は受け入れていらっしやいますよね。本来であれば、年長は年長、年中は年中と区切りの中でしていく保育を、こうやって受け入れて新しい試みみたいなことでスタートされて、たった1年でそれも終わるといったことをされるのであれば、3年保育ということでもよいですし、こども園にこだわらないので何か新しいことをするといった前向きな話があれば嬉しいです。あくまで清和台は閉園、公立の選択肢は事実上ないです。市長も教育長もあるとおっしゃいますけれど、ないです。牧の台を希望しても入れる場所がないですよ。通園手段もないですよ。そういう状況にならないようにだけお考えいただきたいです。

(教育長)

1つはみなし園区ということで、今までは園区外として抽選をされたりしていたのはなくなるということです。通園手段については、おっしゃるとおりなのですが、ただこども園は車での送迎にも対応できるようにつくっていますので、そこはご負担おかけするのですが車での形になると思います。

(市長)

意思決定は我々として何個かのステージがあります。これは世の中的に面倒臭く、市民の皆さんからわかりにくいと思われるのですが、実は民主主義にとってそれは非常に大切なことです。市として、基本的な方針というのは今の計画ということで市の内部としての決定をします。でも、内部で決定をしたとしても、仮に幼稚園を廃園するとなると私たちが廃園をするという条例、幼稚園は条例で全部どこかに設置する、こども園はどこかに設置するということに決まっていますので、それは議会において多数決で、賛成多数で認めていかなければなりません。それは我々がこれを議案という形で出して認めていただきます。ですから、方針として決めるその方針を議会に提出する、そして認めていただくというこのステップになります。ですから我々として、今後計画では多田については集約をしてこども園化していくという方針を打ち出したいと思っています。ただ、予算を伴うとなったら、じゃあこれくらいのお金がかかりますということについては、それも議会の提出をして予算を認めていただくというステップがあるので、我々としてそのステップにいくために、まずここをちゃんと書いておかないと議会からしたら書いていないのに突然予算を出すのか、それこそ行き当たりばったりだとなるので、しっかりとここで書いていきたいと思えます。多田については、場所をどうするかとかスケジューリングがまだできていないので、何年という書き方はできていないですし、書けるかなというところなのですが、方針としてはこども園化することを明確に書くことになるのかなという感じです。最終パブリックコメントが閉めた段階で私たちとしては正式な方針は表明をしたいと思えます。

(参加者)

今日ご説明いただいた第7章の市立就学前教育・保育のあり方ということで、若者未来計画ということで計画の中で、あくまで計画という形であれば、この第7章の中身を見ていると、今後の方針と事業計画というところで久代幼稚園から東谷幼稚園の方針は書かれているのですが、公立幼稚園や公立保育園に入園させる親からしたら、方針だけでは不安で仕方ないです。やはり計画であれば、廃園も計画的に進めてもらわなければならないと思いますし、じゃあこども園はいつ開園するのかというところの計画、要はスケジュールをしっかりと出してほしいと思います。計画と位置づけるのであれば、もう少し具体的に書いていただきたいです。我々保護者が不安なのは、本当にこども園に入れさせたいです。清和台幼稚園はとて

もよいです。ですから、子ども・若者未来計画に位置づけるのであれば、多田幼稚園を保育所と一体化してこども園にしますということまではよいと思います。ただ、そこをいつ開園するのか、うちの子どもは通わせられるのかも含めて非常に気になるところです。通園手段もどうされるのか、今のQ&Aを載せていただけるのでしょうか。

(市長)

パブリックコメントという制度はいただいたご意見に対して市としてはこう考えますという考え方、Q&Aを全部公開する仕組みになっております。今いただいた、この後通園手段についてはどう考えているのか、必要ですといったご意見があれば、それに対して市の見解はオープンにします。もう1つ、ご提案として先ほどもいつになるかわからないということで、例えば令和5、6、7年は検討して、8年、もしくは9年まではいきますといった、一個でいけるのか、サブ案になるのか、それはその間に仮説で人が減ったらどうなるのかなど色々な過程があるのでわかりませんが、時期を何年までにといった明確になることが必要だとご意見を聞いて思いました。そこは回答という形でできるだけわかりやすくしたいと思います。

(参加者)

大人は「検討します」で我慢できますが、これは子どものことですので計画性を持って出していきたいです。私はけやき坂に住んでいるのですが、清和台幼稚園がなくなるという影響をどう受け止めて、どう考えて、どう活かしていくのかというところが、あくまでこれは計画なので書く必要がないと言われたらそれまでなのですが、やはり1つの公立幼稚園がなくなるという影響というのは非常に大きいものなのだという認識をいただいたうえで、このような計画というものの作成に活かしてほしいです。これを見ていると、ああします、ここしますということで、行政さんがつくる計画はこうならざるを得ないのかと思うのですが、幼稚園が1つなくなると影響が大きいというところを認識していただいて、この清和台、けやき坂の公立幼稚園に通わせている親たちは、どうやって拾っていくのかということ子ども・若者未来計画に書いていただくのが本来の計画だと思います。このペーパーの「検討します」という中身だけでは、これを読んだとしてもじゃあ通わせたい親たちはどうしたらよいのか、それは個別具体的な話になるということであればこの子ども・若者未来計画という明るいところも考えていただきたいです。「検討します」というのは、やるかどうかかわかませんというような書き方にしか見えません。もう少し市としても公立幼稚園がなくなったという園区については、受け入れるといった考え方、姿勢を持ってこの計画づくりに意見を反映していただければと思います。

(市長)

ありがとうございます。今回、幼稚園の対象になっている地域全部回らせていただいております。なぜかと言うと、私たちからすると久代や多田では、あるのだからそんなに不安になっていないのではないかと、優先順位としては清和台、東谷に廃園の可能性が高いところは対話をしなければならないということ色々協議した中で、市立幼稚園の保護者、他園の方も含めてそれぞれ保護者は名前が挙がった段階で不安に思っているの、これからどうなるかということのお話をしてくださいといったこともありました。過去から色々地域にきてほしいというご要望もありましたので、それであれば今回全部回ろうと思いました。先ほども反映する気はあるのかといったことでした。繰り返しになりますが、大きな峯のところをバツサリということは基本的には考えていないのですが、それでも今おっしゃったとおり計画でもっと明確にす

るべきではないか、そうなった時にみなし園区とは何なのか、じゃあそうなった時に清和台、けやき坂の方で仮に公立幼稚園を希望される場合は、多田、もしくは牧の台みどりこども園、もしくはここで受け入れが可能かといったような、少なくともそのような回答が公に書かれている、そういうことが何か書かれているということがあると少し安心材料になるのではないかとご提案だと思います。そこはしっかりと受け止めたいと思います。

(教育長)

お話をしていく時に、いつまでに何をするのか明確にしてほしいといった同様の意見をいただきます。すごく曖昧なぼんやりとした計画に見えるかもしれませんが、行政が計画を出す時の段階として、1つはある程度推計します。これからの子どもの出生率や子どもを預けるニーズがどんなふうかということがあります。それは推計でできるだけ読むようにしています。もう1つは、こども園にすることを提案し、じゃあこども園にすることについて理解したけれど場所をどうするのか、今入っている子どもたちは工事中どうするのか、どんな設計をするのか、その辺のスケジュールはなかなかお示しできていません。おっしゃることはとてもよくわかりますし理解もしますので、出せるスケジュールについては出したいと思います。ただ、スケジュールを出すと、ずれた場合。計画なのになぜずれたのかとなるので、難しいところがあるのもご理解いただきたいと思います。子どもさんが日々成長している中で、きちっとした目途をつけたいというのは、それは保護者としての当然の意見だと思います。そこはきちっと受け止めたいと思います。どこまで可能か相談はしますが、どこに建てるのかも決まっていない、どのように建てるのかも決まっていない中で、令和8年度にしますということは難しいことだと思います。急ぎすぎではないかとか、本当にこども園にすることについてみんなの賛同を得たのかとか、そういうところもあるので手順を踏んでいる形になります。今、中間見直しということなので、2年後にもう一回このような形で計画を出させていただきます。その時はおそらくですがパブリックコメントをいただく形になりますので、そこでどれだけ明らかにできるか、今いただいたご意見を受け止めながら出していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(参加者)

ぜひ、前向きなお話、お返事がいただけるように持ち帰っていただきたいと思います。

(参加者)

猪名川町で通園バスを走らせているのに、なぜ川西市は通園バスを頑なに拒否しているのかをお伺いしたいです。バスにかかるコストと言われていますが、猪名川町が安くて川西でやったら高いということは通用しません。例えば、川西の中西部は明峰地域から清和台まで今回、幼稚園がなくなると空白区になります。市立幼稚園やこども園に通いたいという人のアンケートを取ったらよいと思います。猪名川町は松尾台幼稚園を閉園することによって、猪名川幼稚園は3歳児から受けるようにエアコンの工事と預かり保育の設備を改修してつくったと聞いています。他のところの地域でも車もなく離れているから苦労するという親御さんが潜在的にいるかもしれません。そういった声を取らないのはいかがでしょうか。後は、1.5キロ直線距離と言われますが、北部地域は山の上にあるところばかりで、アシストつきの自転車で親御さんが通わせるにても結構ハードです。この辺の地理的状況がわかっていたら、変えますとか、そんな言葉はまず出ないと思います。親御さん、子どもさんの気持ちを考えていらっしゃいますか。タクシーの送迎なども前に市長の提案箱にも書きましたが、タクシー制度をつくりました、それを使うか使わないかは保

護者の方の意向ですと言われ、どうなるかわかりません。

課長に聞いたのですが、令和5年度入園予定の2人の方がどうなるのかということに対しても、個人的なことは答えられませんと言われました。タクシー制度は7か月で230万と言って、1年に換算したら350万くらいだと思うのですが、それも予算計上するののかもわかりません。堂々巡りの話ばかりで、本当に建設的な未来に向けた話はできているのでしょうか。最後に、近隣の自治体の状況はわからないと言っているのですが、自分は伊丹市の幼稚園、保育園を確認すると、学校の校区ではなくブロックでわけているのですが、そこにはこども園機能というか、保育園と幼稚園市立を残すという強い明確な意思があります。ただ単になくすのではなく、地域で必要となれば再編する時にその機能を残すということが話し合いの場に出ていないのは残念だと思います。

(教育長)

通園バスが難しいことの理由に、通園バスを走らせるのであれば市内全部走らせないとはいけません。地域によってここは走らせる、ここは走らせないということではできないことだと思います。ここは廃園になったから清和台は走らせるということではなく、市全体として考えるのが1つの市としての考え方ではないかと思っております。また、税金を使って走らせることについて、民間も非常に厳しい状態です。私は民間とも連絡を取っていますが、川西市が急に人口が増えた時に、公立だけでは対応できないということで誘致してきた経緯の中で、今現在、1号認定の子どもを対象にしている施設はどこも厳しい状況です。その中で一定コストをかけて市内全部を回る公立幼稚園、公立こども園を支援するためのバスを走らせるということは、基本的には難しいのではないかと思います。こども園についても、公立のこども園でこの規模で今現在4つつくって、今後もそういったことを検討していくということについては割と踏み込んだ対応をしていると私は思っていますし、市長にはその決断をさせていただいていると思っています。全部のところをこども園にすることは難しいので、地域性もありますしニーズもありますし、その辺を踏まえながら考えていかないと、今後ずっと継続してこのこども園を公立として維持するというのは持続可能な形で考えていくべきではないかと思えます。

(参加者)

川西市は市立幼稚園と市立保育所がセットのところだけこども園になっています。松風幼稚園とか清和台幼稚園はくっつける市立の保育所がないです。いつも話になっているのは、4歳、5歳児が減っていると、8月の説明会にも出ましたが、こども園にして募集したら集まっているということ川西の南部のほうで既に実証済みです。だからこそ、こども園にしたら継続できるのではないかという話が消えずに何回も出ているのですが、こども園はこども園という、市や教育委員会がそのような方向だから平行線になっています。8月の時にも子どもさん連れの方が廃園ではなく休園状態にしよう一度長いことかけたらよいのではないかとおっしゃっていました。休園状態で残してまた復活したら自分の子どもを通わせたいということをおっしゃられました。説明会に出てそういった人もいるのだと初めてわかりました。8月の説明会の時にも、前回に教育委員会を質問を持ち帰ったものが無回答で私たちは腹が立っていますという話もありました。市長もツイッターなどで噂レベルのことは聞いたり見たりして、それが本当だと思わないでくださいと言っているのですが、本当のことを100%市民や住民に説明しているかと言えば、今回もそうですが全然できていないですね。市長が本当に心の底からどう思っているのかというのがわからないから噂が広がると思えます。だからこそちゃんと説明してほしいと思っています。

(参加者)

先ほど教育長が、通園バスは市内全域に回さなければと言っておられました。市内全域は関係ないですよ。南部は市立のこども園が充実しています。自分たちの言っていることは、空白区とかなくなることを重点的に回してほしいということです。南から北から全て久代のほうまで通園バスを走らせてほしい、一台では足りないから二台と言っているわけではないです。今回の市立清和台幼稚園の問題も、自分たちのところがなくなって市立に通えないから通園バスを出してほしいということです。自転車やわざわざ車を出すのではなく、バスがあれば助かります。だからこそ通園バスを強く希望しているという話です。話が市内全部バスを走らせなければならぬとか、そういったことが前提で考えていたら、考え方を改めていただきたいです。説明会以前の問題だと思います。久代にも説明会にいかれたと思うのですが、通園バスを走らせてほしいといった話は出なかったと思います。東谷の通園バスとか、牧の台にいったら先ほど言われたように定員オーバーだからこれからどうするのかといった話もあります。市長は公約の説明などはあまりされませんが、以前北部地域は人口減少を見据えたまちづくりをすると書かれていました。じゃあどんなランドデザインかというのはまったくなく、北部まちづくりプロジェクトチームをつくりましたなど、そういった会議の説明もないです。幼稚園に限らず北部の人はまちづくりに対して不安を持っています。そういうところもつまびらかに明らかにして、もう少し考えていただきたいと思います。

(市長)

市政全体のご意見として承ります。全ての地域で公立幼稚園も選べて、私立幼稚園も選べて、かつ歩いていけるところに公立幼稚園があつたらよいというのは、あるとないのであればあつたほうがよいと思います。それを維持していくことというのは現実的ではないので、公立幼稚園に関しては、選択肢はある、ただ遠い方は自転車もしくはお車で通園をしていただくということが選択肢としての提供の仕方です。猪名川町の状況などはわかりませんが、まちによって川西市は私立幼稚園が比較的多い中で私立幼稚園がそこを代替しているというか、主体になっていただいているという部分もあります。でも、こども園としての役割はしっかりとあるから、そこは北部、南部、中部にしっかりと拠点をつくっていくという、これが考え方です。230万円のお話もあちことでよくされます。昨日も東谷で230万円はどうなったのですかと聞かれました。確かに予算の見せ方というか、予算を組む時というのは、いくらですと事業者に入札をする時に足りない数字であると応じてくれなかったら難しいので、少し多めに設定をします。それが見た目230万になってしまったので、実際に本当にかかっていたとしたらその半分くらいの数字でいけるだろうということは最終計算値としてはありました。今どうなっているかということ、当事者の方がご利用されないという選択をされました。それはどういう理由かということについてはご本人さんのご意見を私が言うわけにはいきません。ご本人としてこの制度は利用しないけれど、我々としては制度として清和台幼稚園に入園をする予定の方が、私たちが突然入園を受け入れないということによってご迷惑をおかけしているので、ここの幼稚園、こども園だったらいけますよという斡旋をして、そこまで移動手段を幼稚園から新たな園までは整備をさせていくことを制度としてつくっていきたいと思っています。

ただ、繰り返しになりますが、その制度をご利用されるのか、別の手法でいかれるのか、別の園にいかれるのかということは、あくまでご本人が決定をすることでありますので、私がおの方のご決定がどうだったかということは申しあげるべきではないということです。どこまで何を説明しているか、説明していないかと言われたらわかりませんが、基本的に聞かれたことは答えていきたいと思っておりますし、北部についてどうするのかというご意見があればそれはしっかりとお答えしていきたいと思っております。北部については、北部の地域の皆さんとお話し合いをして決めます。勝手に市が越田謙治郎の北部地域ランドデ

ザインと突然発表されたほうが1人で勝手につくるなという話ですから、今回は北部地域の皆さんと一緒に令和5年度中につくるということは明確に申しあげていると思います。

(参加者)

タクシー送迎の件についてはわかりました。費用を出すのがいけないので、公用車で送迎するという噂もあります。それはそういう話はないですと言いつけてもらってもよいですか。

(教育長)

公用車でコストはかかります。それがだめだから公用車にという考えは今現在のところはありません。

(市長)

今、当事者の方たちと来年度の幼児教育をどうしていくのかということは話し合いをしている状況で、そこに対して明確な答えがあるという状況ではないです。仮に答えがあったとしてもここで言うべきかどうかということはありませんが、ただ、仮に我々として問題意識は、お1人になりますのでコストの面ということよりも集団教育ができていない状況なので色々な選択肢をお示ししています。お示しに行く時に、仮に 幼稚園で合同保育をしましょうと言った時に、1人でいくというお話であれば1人でいていただくほうがよいのかもしれませんが、我々としてどういう形でお子さんたちを教育・保育をするのかということは、それはその状況に応じて考えていかなければいけないということです。そこに関する費用を1円も出すなどと言われると、清和台幼稚園ですとどこにもいわずにお1人の教育をやらなければいけないということが本当によいのかどうか、そこのお話し合いなのだと思います。これ以上はすみません、個別の案件なのでお話しはできません。

(参加者)

令和5年度入園予定だった2人の方の今年の4月からの対応はどうなっているのかお伺いします。今在園中の方は1年延長で大丈夫なのですが、令和5年度入園予定だった2人の方に対しては誠意を持って対応しているというお話でした。他の市立にいくのか、それとも私立にいくのでしょうか。教えていただける範囲で結構です。

(教育長)

申し訳ありません。個別のことで、今申しあげることはありません。先ほどからお話していますように、協議を重ねて対応をしているという状況です。

【閉会】